



健康は自らの手で

3月15日と25日に健康増進のための「増健カレッジ」が、坪谷・仲深地区の高令者を対象に中央公民館で開催されました。

15日には、健康体操や家族で楽しみながら出来る、ゲーム風のを主に行なわれ、25日には、歩く健康法を主に開催されました。

これは、宮崎県が56年度から始めた事業で、39コースと還暦コースの2つがあり、日向保健所管内のうちから東郷町が還暦コースの指定を受け健康増進と健康管理について、昨年11月から6回にわたり実施されて来たものです、延参加人員は206人でした。

(カレッジとは、専門学校・分科大学・単科大学を意味します。)



昭和57年 5月号 第369号

発行/東郷町役場・編集/企画財政課

親も見じ姉もいとほしふるさに

ただびろう樹を見にかへりたや

牧水

坪谷中学校越表分校閉校 分校最後の卒業式

閉校記念誌から

学校統合によせて

町長 木村 誠

三月十八日に町内中学校の卒業式が行われましたが、坪谷中学校越表分校では最後の卒業式が行われました。村社校長から「最後の卒業生として先生たちと共に喜びたい」「母校を誇りにしよう」「一期一会の心を大切にしよう」とあいさつがあり、最後の卒業生八名が巣立ちました。

この越表分校は、昭和二十一年三月に「教育基本法」と「学校教育法」が制定公布され、翌昭和二十二年に画期的学制六・三・三・四が公布されて国民学校は小学校と改められ、新制中学校が新設されて義務制となり、同年五月八日に、坪谷中学校の本校を坪谷小学校に、分校を越表小学校に併設して開校しました。

現在の越表分校々舎三百六十三平方メートルは、昭和二十六年四月に落成したものです。昭和二十二年、第一回卒業生から第三十五回卒業生の六百六十五人を送り出しました。

坪谷中学校越表分校の統合は、町の重要な問題として越表・下渡川地区の人達の意向を尊重しながら、議会は勿論、教育委員会との合同協議会を開催する等、長い年月に亘って、議論を重ねてきました。

分校存続の基礎となる生徒数の見通しが、昭和五十九年には一五名となり、なお減少の傾向が続くと推定されましたとき、私もこれ以上、越表分校を分校として維持することが、学校統括の面から、又適正な教育を進める上からも、極めて困難であると考えざるを得なくなりました。

それまでは、教育関係の方々の統合推進論や地元の人達の賛否両論の中にあっても、私は、統合することが果して学力向上につながるのか、それが教育の機会均等になるのか、更に統合によって生徒のみなさんが受ける遠距離通学の苦勞、地域の人達が三十五年間の長い間親しんできた分校を失うことによる寂寥感等々、思うとき何とも決断づけがたきものがあり、でき得れば、分校ではなく、東郷

町立越表中学校として独立した学校とすべく今日まで、過疎防止の一端にもと地域の人達も活用できる体育館の建設、運動場の拡張、道路の整備等を行い、その間にも企業立地の要請を行うなど、それに伴う姿勢好転にひそかな望みをかけ、できる限りの行政努力を行ってまいりました。

然しながら町としての人口の流失は、一応静止の状況にあるとはいえ、国の経済、社会状況は一向に良くなるどころか、むしろ低成長減速化への歩みを止めることなく、自治体も又国の方針に沿って緊縮財政の方向にむかわざるを得ない実情にあります。

越表・下渡川の皆さんに対しては、これまで長い間親しんできた分校がなくなると言うことは、誠に悲しい歴史をつくることになり行政責任者として心の痛む思いであります。

私は、中学校が小学校における教育の基礎の上にならば、社会における基礎的な知識と技能を学ぶ将来の進路を選択する、極めて重要な目的を有していることは、充分認識しております。従って、統合がきまったら以上、分校の皆さんの学力向上に配慮し、今後坪谷中学校の教育内容及び、施設の整備に一層の努力を続けていきたいと存じます。

分校の皆さんは、昭和五十七年四月から坪谷中学校に通学することになります。これからの厳し

い競争社会の中にあつて、それに耐え抜き得る粘りと、根性を学習することが必要であります。遠距離通学も自らを鍛練する場と考え、これまで分校で培われた良い伝統は、そのままそっくり本校で

閉校記念誌から

三十五年の栄光を賛えて

教育長 木村 映一

明治五年に学制が公布され、近代教育制度が創始されてからこれまでの一〇九年の歴史の中で、昭和二十二年四月に施行された六・三・三制の教育制度は、今日の民主教育を確立した画期的な改革であったと存じます。

坪谷中学校越表分校は、この制度の施行により、昭和二十二年五月十二日に招集された東郷村議会において東郷中学校、坪谷中学校、東郷中学校福瀬分校とともに設置が議決され、越表小学校に併設して開校いたしました。

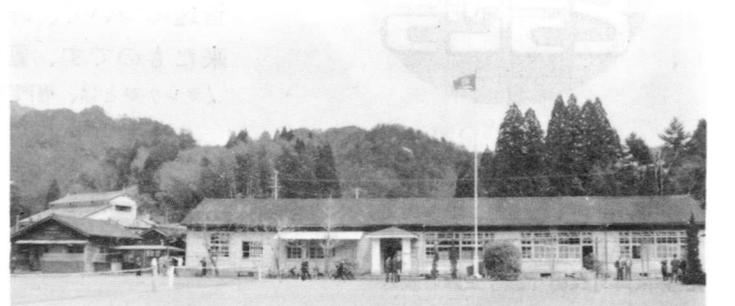
当時は、戦後間もなく、戦災の復興や海外からの引揚対策、食糧の確保と混同した経済状況に加えて、国民道義の退廃など最も混乱した時代で、村の財政も乏しく新制中学校々舎の建築など殆んど不可能に近く、その対応は誠に

儀なくされましたが、当分校の将来にわたる中学校教育の姿を展望するとき、この機会に発展的に坪谷本校に統合することが最善の姿であるとの結論に達し、校区民の深い御理解によって、校区民の一日をもって統廃合することになったことは誠に意義深く感慨一入であります。

開校以来三十五年、この地域の教育、文化の拠り所としてその発展に尽くしてきた分校であります。地域の方々の心情は察するに余りありますが、この地域に育つ子ども達が、より充実した教育環境の下で勉学に専念できることの重要性を理解し、御英断をいただきましたことを心から感謝申し上げます。

さて、今日の教育をとりまく環境は誠に厳しいものがありますが先人の残されたこの地域の伝統的な生活文化、人情、素朴であたたかな人間性を継承しながら、地域にねぎらった教育と発想によって、教育の目的である人格の完成をめざし、国家社会に貢献することのできる前途有為な国民の育成が図られるよう一層精進をいたす所存であります。

最後に、三十五年間にわたる越表分校の輝かしい業績を賛えますとともに、開校以来当分校教育のために貢献いただいた歴代の諸先生方に衷心から敬意と感謝を申し上げます。



点描 (8)

八重原の壮年クラブ

「明治三十五年一月八重原壮年会」と記された大工道具箱が残っています。既に使用不能の状態ですが、この大工道具は区内の葬式や祭り等に諸物を作ったものであります。葬儀の棺桶等は勿論作ったものです。その大工道具が残っているように、八重原には昔と同じ様に壮年クラブが結成されています。明治大正昭和の初期頃までは、どの区にも壮年会が組織されてきました。「壮年会」の大字を入れた提灯等も持つていて、夜間非常の場合等には使用されたものであります。時代の變化か、青年団活動が盛んになり、戦時体制が翼賛会と言った形になってしまったのであります。戦後は青年会だけの組織となり、壮年会というものの形は消えてしまいました。青年会、婦人会、育成会、老人クラブ、子ども会等の組織、活動は活発となりましたが、三〇才代四〇才代、五十才代等の社会教育的組織は殆んど皆無と言った状態でありました。八重原区には、昭和四十年頃より青年クラブを結成していましたが、後に青年会が独立し昭和五十四年三月より壮年クラブも独立結成となって現在に至っています。戸数の少い八重原区としての人数は僅かに二十八名で二十九才より五十五才までの者がクラブ員であります。この壮年クラブの年間事業活動が素晴らしいものであります。一、定例会毎月第三土曜夜二、区内美化作業 区内三ヶ所にゴミ収集箱(ドラムかん)設置三、活動資金として会員毎月二〇〇円振出四、区内行事には率先して参加、葬儀の時全員参加し野辺の送り埋葬等の仕事を受持つ。五、ソフトボールチームを結成し健康増進、親睦をはかる。六、町民体育大会等には率先して協力参加する。今後の事業計画として

文化遺産の旅 ⑬

感謝の碑

頌徳の碑

東郷町役場の庭に「頌徳の碑」がある。碑文に「村政に大きな功勞のあった人々の遺業をしのび遺徳を讃え後世永くその名をとどめ村人たちの道しるべとしてこの碑を建てる」とあるように町治、産業、文化、経済等あらゆる面で町の伸張に偉大の功績のあった先賢たちへの感謝の



碑で、現在その芳名をこの碑に刻された先賢は新名馬治、高森順蔵、奈須熊吉、黒木松美の四氏である。

一、公民館用ストロブ購入寄贈二、大工道具の購入三、月一回の家庭の日の定着化まことに見事な八重原壮年クラブの活躍ぶりでありました。毎月一回のゴミ収集には一人の欠会者無く環境整備と美化奉仕に務めている事等賞讃に値する事のみであります。全区民の信頼の限りを集めているところであります。私は生涯教育の面より案ずるにこの壮年層の教育が一番欠けていると思われてなりません。「父親よ立上れ」非行青少年の暴発事例多発の時、この声が大きくくさばれています。八重原壮年クラブの様な組織団体が、各区に組織されて、前述の様な見事な活躍が町内各地に生れて来ることを希望してやまないであります。東郷町社会教育委員 都甲鶴男

牧水と坪谷

(1)

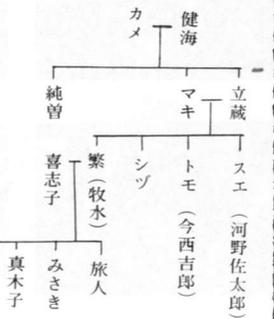
坪谷は牧水には幼き日はぐくみ育てられた地であり、長じては慕郷の里であり、近頃は母の胸に抱かれて水眠おくつきの地であります。

牧水が坪谷での実生活の期間は、牧水四十三年の生涯の約五分一にも過ぎません。生れて八年間は両親と坪谷の生家で生活しましたが、次の八年間は延岡高等小学校、延岡中学校に学んだので、夏、冬、春の休みに帰省しての生活であり、早稲田大学時代は、明治三十八年、三十九年、四十年の夏休みに帰省しての生活であります。

大学卒業後は卒業直後約二十日間と、明治四十五年七月父病氣のため帰省して約十か月。大正十三年三月、父十三回忌の法会を営むため帰郷して約二十日間、昭和二年七月、朝鮮旅行の帰途五日間立寄りしました。これだけが坪谷での実生活の期間であります。

この期間の牧水の生活を牧水の隨筆、紀行文、日記、書翰等と牧水と親交のあった人々の思い出などを交えて記すことといたしました。

一、坪谷の若山家々系



二、坪谷村 牧水は生地坪谷について隨筆「おもひでの記」に次のように記しています。

「私の生れた村、詳しく云へば日向国東臼杵郡東郷村大字坪谷村は山と山との間に挟まれた細長い峡谷である。ことに南には附近第一の高山である尾鈴山がけはしい断崖面を露はして眼上に聳えいるので、一層峡谷らしい感じを与へて居る。村の長さは東西に延びて四五里もあるだろうが、戸数は僅か二百か三百足らずのものであると思う。」(中略)

涇は尾鈴山の裾に沿うて白々と流れている。そして人家は大抵みなその洋に沿うて作られてある。其処に五戸、此処に十戸と、長さ四五里の間に三百足らずの家が散在していると言へばその寒村の面影は自ら彷彿するであらう。 塩月 儀市

駐在所だより

自己紹介

この度の異動で東郷駐在所に来ました花岡部長です。出身は延岡市土々呂町で昭和十六年の生まれです。中三と中一のガキムたりがいます。前任者瀬戸部長さんに負けないよう(菊とはみ禁には負けません)頑張りますのでよろしくお願ひします。シラガまじりの坊主頭ですからすぐにわかります。

車にはカギをかけよう

車は便利な乗りものですが交通事故を起こさないことももちろん車を盗まれないようにして下さい。車が盗まれますと銀行や郵便局など金融機関の強盗事件に利用されることにもなります。車をはなれるときはドアロックをする癖をつけましょう。四月十日に西郷村

飲酒運転をなくそう

二月の「飲酒運転絶滅月間」期間中においても相当の飲酒運転者が警察につかまっています。東郷町内から一人も酒による交通事故ひとつてもあります。ときどき夜間の飲酒運転取締りをします。みんなて交通のルールを守り安全運転に心掛けましょう。

お知らせ

道路工事 4月20日～6月28日 県道仲の原～美々津線の福瀬小学校、福瀬橋間で道路工事が行なわれます。時間は午前八時から午後五時までで発破作業をすることもありますので誘導員の指示に従って安全に通行して下さい。

五月は国民年金の現況届の提出時期です

国民年金の障害年金、母子年金、準母子年金、遺児年金、寡婦年金を受給されている方は、毎年五月三十一日までに「国民年金受給権者現況届」を市町村役場を通じて社会保険事務所へ提出することになっております。現況届は、引き続き年金を受

郵政省では、身体障害者福祉強調運動に際し、この運動に協力して、次のような特別な意匠の四十四郵便葉書を昭和五十七年四月二十日から発行します。なお、この葉書は、一般に売りさばくほか、通信記念日にちなみ事業PRの一環として、重度障害者で申し出られた方に差し上げることとなっております。▽配付の対象 重度の身体障害者(一級及び二級)

身体障害者福祉強調運動にちなむ郵便葉書(青い鳥葉書)の発行及び配付

経済の高度化につれ私たちの身のまわりには大型の耐久消費財がゴミとなって排出されるようになってきました。今までこれらの大型ゴミは、始末に困り放置されているのが現状です。今まで燃えないゴミは日向市内の埋立地に持込まれていましたが、四月から町内の埋立地に持込みができるようになります。この埋立地は、常時持込むことはできません。このため次の要領で一斉持込みをしますのでお知らせします。

- 1 持込み上の注意
・燃える物(紙、布、木材等)は持込まないこと。
・埋立地以外には投棄しないこと。
・スプレー、携帯用ガスボンベ等の空缶は、穴を開けること。
・火気には充分注意すること。
・係員の指示に従うこと。
・指定された日以外は、門扉が閉めてあり持込みができません。
2 持込み時間及び要領
午前9時から午後4時30分まで
に個人又は組合単位で持込んでください。



- 3日 割
▽5月19日 寺迫
▽5月20日 福瀬、鶴野内、迫野
内、八重原、田野
▽5月21日 小野田、羽坂、仲深
坪谷、越表、下渡川
・毎月行なわれます収集は、従来どおり実施します。

所、氏名及び生年月日を記入し、押印の上申し出るようになっていただきます。

この葉書の配布を希望される方は、住所又は居所のお近くの郵便局に身体障害者手帳を提示し、所定の用紙に必要事項を記入して申し出るようになっております。(代人でも可)
なお、郵便によって申し出ることもできます。(この場合、ご本人の手帳番号、級別、住所又は居





おしらせ

昭和57年
商業統計調査を実施
6月1日現在

通商産業省では、昭和五十七年六月一日現在で商業統計調査を実施します。

この調査は「商業の国勢調査」ともいわれるもので、わが国の商店の分布状況や販売活動の実態および商品の全国的な流通状況などを明らかにするため、全国の卸売・小売業および飲食店を営んでいるすべての商店を対象に行われます。

青年海外協力隊員を募集

青年海外協力隊では、アジア、アフリカ、中近東、中南米、南太平洋の開発途上諸国の国づくりに参加する協力隊員を次のとおり募集しております。

- ▽派遣分野
農林水産、加工、保守操作、土木建築、保健衛生、教育文化スポーツの各分野。

衛生だより

- 3才児検診
5月18日 受付1時〜2時
老人福祉館
 - 乳児検診
5月19日 受付1時〜2時
老人福祉館
- 母子手帳を忘れないように！

この調査の結果は、重要な基礎資料として多くの分野で利用されます。

調査は、県知事から任命された商業統計調査員が、商店を直接訪問し、調査票に記入していただき、回収するという方法で行います。
提出される調査票は、統計法により厳重に秘密が守られますので正確な申告にご協力ください。

- ▽資格
満20歳から35歳までの青年男女で、中堅程度の技術、技能があり、単身で赴任できる方。
- ▽派遣期間
2年間
- ▽募集期間
昭和57年4月15日から5月31日まで。
- ▽隊員募集説明会

青年海外協力隊と県では、次により隊員募集説明会を開催します。

- 5月12日(水) 18時から21時
宮崎市松橋一―一―
- 5月13日(木) 18時から21時
宮崎県職員会館「日向荘」
宮崎市松元町4街区14号
宮崎市総合福祉会館

原子爆弾被爆者健康診断について

本県では、原子爆弾被爆者健康手帳及び健康診断受給者証をお持ちの皆さんを対象とした昭和五十七年度第一回健康診断を昭和五十七年五月一日から、五月三十一日までの期間内に県内の各保健所において実施(受診料無料)いたしますので、もれなく受診されるようお願いいたします。

なお、御寄付御礼
昭和五十七年三月十四日から四月十三日までの間に香典返しとしてつきのかたから社会福祉のため御寄付をいただきました。
亡くなられた方の御冥福を謹ん

でお祈り申し上げますとともにここに厚くお礼申し上げます。

- ▽小野田の伊藤スミ子さんから(知貞さん 七十三才ご死去)
- ▽田野の黒田 功さんから(ハルエさん六十三才ご死去)
- ▽田野の那須今朝春さんから(トキさん 八十四才ご死去)
- ▽坪谷の那須勝美さんから(未春さん 七十六才ご死去)
- ▽追野内の永田重喜さんから(ヨさん 八十才ご死去)

行政相談

「行政相談」は、あなたの生活と行政をつなぐパイプです。明るく住みよい社会をつくるためにご利用ください。

なお、相談内容は秘密を厳守しますので、お気軽にご相談ください。
▽開設日 毎月第三火曜日 9時〜15時まで
▽場所 東郷町老人福祉館 東郷町行政相談委員 山口 俊一

まちのうごき

人口	6,489人	(△54)
男	3,140人	(△30)
女	3,349人	(△24)
世帯数	1,756戸	(△15)

57年4月1日現在
()は対前月比。

戸籍だより

3月届分
出生おめでとう

赤ちゃんの名	父の名	住所
山口 瑞穂	幸男	小野田
日高 晃良	範	下渡川
前川 裕浩	規	仲深
佐藤 隆一	雄二	小野田

結婚おめでとう

氏名	住所
内海 三子	越前市
山杉 玉子	日向市
田村 純子	越前市
小直 純子	宮崎県
中野 輝子	福井県
鈴木 明義	福井県
直野 村行	福井県
鈴野 村行	福井県
尾崎 千浩	延岡市

ご冥福を祈ります

氏名	年齢	住所
弓場 ハヤ	87	坪谷
前田 キヌエ	72	坪谷
矢野 明子	61	坪谷
永田 明子	80	坪谷
岡田 明子	46	坪谷
伊藤 源治	73	坪谷
黒田 知貞	63	坪谷